

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事		令和5年 7月 20日					
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市中京区壬生花井町3番地		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） NISSHA株式会社 代表取締役社長兼最高経営責任者 鈴木 順也 電話 075-811-8111					
主たる業種	主として管理事務を行う本社等						
	細分類番号	1	5	0	0		
事業者の区分	京都府地球温暖化対策条例施行規則	<input checked="" type="checkbox"/>	第12条第1項第1号	<input type="checkbox"/>	第12条第1項第2号又は第3号		
		<input type="checkbox"/>	第12条第1項第4号				
計画期間	令和 2年 4月から令和 5年 3月まで						
基本方針	環境マネジメントシステムをレベルアップさせ、環境目的と環境目標の設定・実施・見直しにより継続的改善に努める。（当社環境方針で電気・ガスの効率的な使用により気候変動に対応することを重点項目に挙げている。半期に一度開催されるマネジメントレビュー報告会で、関係各社を含めた全部門の取り組みや改善状況を報告する。）						
計画を推進するための体制	電気・ガスなどのエネルギーの効率利用を推進する推進者と管理者を部門ごとに選任。全社的には社長が委員長を務める「マネジメントレビュー報告会」を半期に一度開催し、目標等の進捗状況を確認・報告する。						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (29～1)年度	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	3,037.6 トン	3,268.3 トン	3,358.0 トン	3,846.2 トン	14.9 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	2,882.8 トン	3,268.3 トン	3,358.0 トン	3,846.2 トン	21.1 パーセント	
	実績に対する自己評価	省エネ設備、太陽光発電設備などの導入を引き続き検討して排出量抑制に努める。 設計開発部門での試作の増加、実験室の増設によるエネルギー使用量の増加。 2022年～、別会社の工場の一部分を本社の工場として運用開始し、電力量・都市ガス消費量の増加にともないCO2排出量が増えた。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (1)年度	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	増減率
	事業所	事業活動に伴う排出の量 (延床面積×人数)	82.30	94.68	93.98	106.31	19.47 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ( )					パーセント
		実績に対する自己評価	2022年～、別会社の工場の一部分を本社の工場として運用開始し、電力量・都市ガス消費量の増加にともないCO2排出量が増えた。（原単位指標は、基準年比でほぼ変化なし。） 設計開発部門での試作の増加、実験室の増設によるエネルギー使用量の増加。				
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (1)年度	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	備考	
		111.0 パーセント	105.0 パーセント	105.0 パーセント	105.0 パーセント		
具体的な取組及び措置の内容	(2)年度	新棟建設・旧棟改築時の省エネ設備の採用（高効率照明・空調）					
	(3)年度	蛍光灯の高効率化（LEDまたはHFタイプ相当）					
	(4)年度	蛍光灯の高効率化（LEDまたはHFタイプ相当）変圧器の高効率化更新					
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	マイカー通勤者に対して公共交通機関の使用を推奨。					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	2019年と比較して、マイカー通勤者が増加している。（基礎疾患を有する方・高齢の方の新型コロナウイルス感染症対策の影響）					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	地域産木材の利用によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>容器のシェアリングサービス（Re&amp;Go）の提供</li> <li>廃棄物ゼロエミッションの推進</li> <li>小学校への環境学習の実施</li> </ul>						
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>容器のシェアリングサービス（Re&amp;Go）が、令和4年度「京都夢実現プラン」特別推進賞を受賞</li> <li>令和2年1月1日、亀岡成形技術センターと亀岡工場の一部が当社グループ会社 ナイテック工業(株)亀岡工場として再編され、3年目になる。延べ床面積減少による影響で1年目から目標より原単位が増加している。</li> <li>超過削減量無し</li> </ul>						

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。  
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。  
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。  
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。